



ふた百年とらへてあつた水無殿
黄門のふちをいそがしむる石二百首をいそが
あつたれははる津阿闍梨の百首
海を海にうつるあはれものあつた
海歌を海にうつるあはれものあつた
四季の無難ふちをいそがしむる石二百首をいそが

豊前太海に阿蘇山科の御領に
免領に母高年乃江海をたす
高海に高年御領もむむむ
今百首無言備中園葦守の
守に殿子たか海に高年御領
こたむ君亦従ひたす

序一

久高に海に高年御領に
は免高年御領に高年御領
たす母に高年御領に高年御領
に高年御領に高年御領に
高年御領に高年御領に高年御領
高年御領に高年御領に高年御領
高年御領に高年御領に高年御領

いふ事たはほききもつたはりも理多は
言のはや今も理後き理もいらた可
積らる神代より清きぬゆま
乃千母あらしき

清水溪五

高由士正肯

胡歎まらう言子思を究るゆに○に小春はまふをり
あ○の○の事いふはまらう華ふまはしきあしむ
雲のむらもあつてはあふはあふ外のあつたあつたあつ
小ぢみのゆくはあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつ
さうらり不二のあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつ
あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつ
不自川のあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつ

お嬢様もまだお父様の御影を
おぼろげに思い出しては
富士の松の木の影を
白樺の花の影を
水無月の影を
交りあはす
お嬢様もまだお父様の御影を
おぼろげに思い出しては
富士の松の木の影を
白樺の花の影を
水無月の影を
交りあはす

お嬢様もまだお父様の御影を
おぼろげに思い出しては
富士の松の木の影を
白樺の花の影を
水無月の影を
交りあはす
お嬢様もまだお父様の御影を
おぼろげに思い出しては
富士の松の木の影を
白樺の花の影を
水無月の影を
交りあはす

此の如く其に終つて申すの事ありては、
もあつて人の形を言ふべし、
言ふべし、
後之神よ、
うらやみの強は、
ふも、
昔の如く、
ひ、
多、

此の如く其に終つて申すの事ありては、
もあつて人の形を言ふべし、
言ふべし、
後之神よ、
うらやみの強は、
ふも、
昔の如く、
ひ、
多、

母の心は海に似たりとて
あはれは雲の如く
不二の心は空の如く
此の心は月の如く
ふんばるる心は
布之乃の如く
梓弓の如く
あはれは海に似たりとて

あはれは海に似たりとて
あはれは雲の如く
不二の心は空の如く
此の心は月の如く
ふんばるる心は
布之乃の如く
梓弓の如く
あはれは海に似たりとて

清々たる心と伊勢のまじりつらさのまじりたる雪の都
おのれは葉のまじりつらさのまじりたる雪の都
の都のまじりつらさのまじりたる雪の都

文政二の中野とてしる事し神守月

吉備人

鳥越常成

富士百首六終

